

建設業

回答企業57企業

概況

～業況判断DI値 やや悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比3.5ポイント低下の▲1.8とやや悪化し、前回調査予想値(10.3)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で13.9ポイント低下の▲7.0、売上数量が10.5ポイント低下の▲8.8、利益では3.3ポイント上昇の▲10.5となった。項目別では利益のみやや改善となった。

公共工事の受注は例年並みに推移。人員不足の影響から、受注調整をしている業者も多い状況となった。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

一般住宅については新築工事はやや減少傾向にあるがリフォーム、小口工事は堅調。

土木工事業は、公共工事を主体に好調に推移。

管工事業は、公共工事・一般工事とも好調に推移。

造園業においては、剪定作業終了後雪囲い受注もあり例年通りに推移したが、資材高騰により利益は減少傾向となった。

業界全体として人材、下請け業者の不足があげられており人材確保が課題となっている。

来期の見通し



～業況判断DI値 悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比26.3ポイント低下の▲28.1と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で26.3ポイント低下の▲33.3、売上数量が26.3ポイント低下の▲35.1、利益は22.8ポイントの低下の▲33.3となった。

来期は冬季間により業者間格差もあるが、業況悪化を見込んでいる。人材確保に向け、各企業とも対応に苦慮している。



製造業

回答企業33企業

概況



～業況判断DI値 悪化で推移～

今期の業況判断DI値は、前回調査比15.2ポイント低下の▲15.2と悪化し、前回調査予想値(12.1)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で12.1ポイント低下の0.0、売上数量が15.1ポイント低下の▲3.0、利益でも3.1ポイント低下の▲15.2と全項目で悪化した。

原材料および燃料費等の高騰で、価格転嫁により売上高は増加するも、利益は横ばいで推移している業者が多い。青果物加工業については、品質悪化や品薄により仕入価格上昇を受け厳しい状況。

分野別の状況

～総合的業況 悪化で推移～

酒造メーカーでは一番の繁忙期を迎える、また日本酒人気の高まりから好調に推移。

りんごを取り扱う食料品製造業は、材料の品質、数量、価格高騰の影響を受け対応に苦慮している。

印刷業では、紙印刷の売上の低迷が続き年賀状印刷も減少している。

洋菓子・和菓子製造業については、原材料や資材の高騰から利益低下を余儀なくされ、さらなる価格転嫁は売上高減少も見込まれる事から対応に苦慮している。

来期の見通し



～業況判断DI値 悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比9.0ポイント低下の▲24.2と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では9.1ポイント低下の▲9.1、売上数量が9.1ポイント低下の▲12.1、利益では0.0ポイントの▲15.2と、項目別でも悪化の見通しとなった。

業種にもよるが、季節的要因から業況は低調に推移する見通し。さらなる原材料の高騰や、人員不足などの問題もあり対応に苦慮している。

